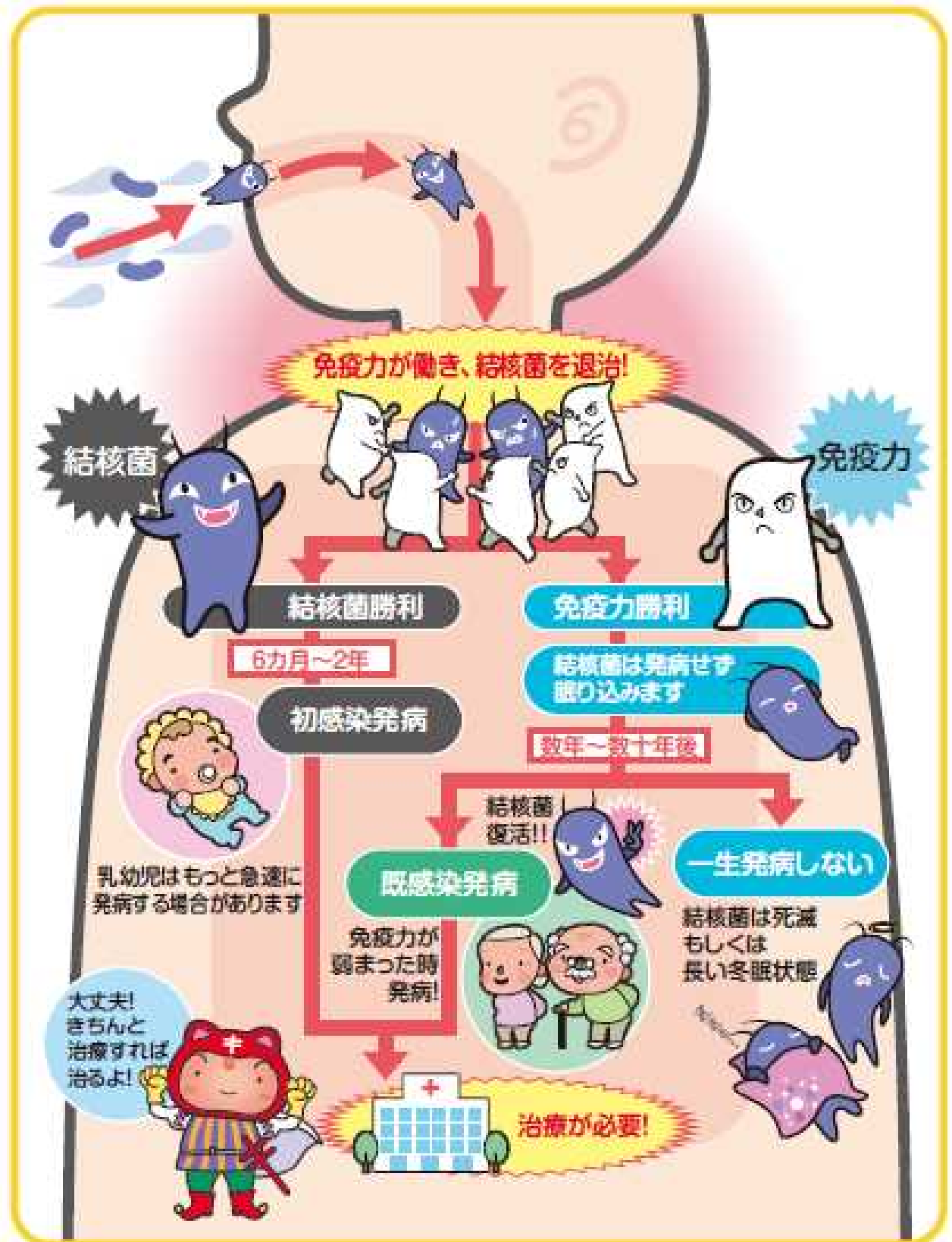


結核って、どんな病気？

- 結核とは、結核菌によって、主に肺に炎症がおこる病気です。結核菌の混じったしぶきが、咳やくしゃみと一緒に空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによって、感染します。
- 結核に感染しても必ず発病するわけではなく、発病するのは10人に1～2人です。免疫力で結核菌の増殖を抑えきれなくなると結核を発病します。
- 症状としては、咳（セキ）、痰（タン）、胸痛、息切れ、血痰などの呼吸器の症状に加え、疲労感、倦怠感、微熱、食欲不振、寝汗、体重減少などがあります。初期の頃は、症状がないことも多く、胸部X線検査で発見される人もいます。
- 結核を発病した人すべてが、人にうつすわけではありません。痰の中に結核菌が出ている人は、人にうつす可能性があるため、入院や就業制限が必要になります。

結核発病のメカニズム



肺外結核（肺以外の場所にもできる結核）

○結核は、肺以外にもできます。肺以外の場所にもできた結核は、人にうつす可能性はありません。

- 頸部リンパ節結核：頸部の腫脹、発赤、排膿
- 腎結核：膿尿、発熱
- 結核性胸膜炎：胸痛、発熱、呼吸困難
- 脊椎カリエス：腰痛、発熱
- 結核性腹膜炎：腹水による腹膜炎、発熱
- 結核性髄膜炎：発熱、意識障害
- 腸結核：下痢、便秘、腹痛、腸閉塞

○治療は、肺結核と同じ治療法です。

潜在性結核感染症（LTBI）

○潜在性結核感染症（LTBI）とは？

結核菌に感染した（菌が肺の奥に入り眠っている）状態で、咳や痰などの結核の症状はないが、今後結核を発病するリスクのある状態です。人にうつす可能性はありません。

○お薬：

1種類のお薬を6ヶ月（または9ヶ月）服薬します。

きちんとお薬を服薬することで、発症を約60%抑えることができるといわれています。

○お薬を終了した後、経過をみるための検診（管理検診）が必要な場合もあります。

治療予定について

結核の治療は、原則、複数の種類の薬を6ヶ月(または9ヶ月)服用します。

長い期間の服用は、大変なことです。症状がなくなったからといって、途中で服用をやめてしまうと、結核菌は再び活動を始めます。

飲んだり飲まなかったりすると結核の薬が効きにくい菌(耐性菌)になってしまいます。



治療期間が延びることもあります

<管理検診>

結核の再発がないかをみるため、結核の治療(内服)が終了したあと、定期的に受診し、経過観察を行います。